

令和 8 年 8 月 7 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島県立広島中学校	広島県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島県立広島中学校	https://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp/education/manabihenkaku/kenkyukaihatsu/index.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島県立広島中学校	https://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp/guide/keiei/pdf/R7_nendomatsu_3.pdf	https://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp/guide/keiei/pdf/R7_nendomatsu_5.pdf

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している

・ 実施していない

＜特記事項＞

- ・ 3 学期に第 2・3 学年でパフォーマンスコンテストを公開し、保護者の方も参加していただくことで学習の成果を見ていただいている。
- ・ また、公開研究会で授業公開することで、他校の多くの方に参観していただき、御意見をいただくことで改善を図っている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校では、教育目標として「持続可能な社会の構築に貢献できるグローバルリーダーを育成する」を掲げている。

「ことば科」においては、「持続可能な社会づくり」の担い手をはぐくみ、グローバル化時代に必要な「論理的な思考力・表現力」を生徒に身に付けさせるために、各教科等の核となる言語運用能力の育成を図っている。

生徒は、様々なコンクールや大会において、多く入賞するなど、表現や構成など、パフォーマンスの面で発揮される工夫等が高く評価されている。

課題は、持続可能な社会づくりの担い手を育成するために、生徒が様々な情報を整理し、結び付け、知識を概念的に理解した上で、新たな価値の創造につなげられるような教材開発を充実させることである。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校の「ことば科」における国語科と外国語（英語）科の連携によって、生徒の言語運用能力の向上、言語感覚の豊かさの面で効果を得ており、学力調査や定期考査では、知識を活用して答える問題で高い正答率がみられた。また、授業アンケートの「ことば科で身に付けた批判的思考力や表現力が他の授業で役に立った」という設問に対する肯定的回答は 95.9%であり、ことば科で身に付けた力を他に生かそうとする姿勢がみられる。

課題は、「論理的な思考力・表現力」のさらなる向上を図るために、ポートフォリオ評価等を用いて、より多面的に生徒の学びを捉えていくことである。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、「ことば科」の充実に向けた改善を図ることが必要である。そのために、広島県教育委員会等から指導・助言を受けながら、中学校と高等学校の連携、「ことば科」と他教科等との連携により、学びが相互に作用するようにカリキュラム・マネジメントの視点をもって学校全体で協議を重ねていく。

また、「ことば科」における指導と評価の一体化が図れるよう、生徒の学びの変容を適切に見取ることができる観点別評価の在り方を引き続き研究していく。

さらに、SDGs を達成することを意識した学習課題を設定し、「論理的思考力・批判的思考力」等の言語活動を基軸とした「論理的表現力」を高めるための協働的な学習活動を展開していく。